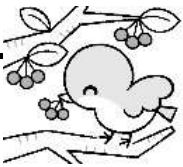


めぐみの子

10月



2026年9月28日

深川めぐみ幼稚園

幼稚園ウェブサイト <https://www.fukagawamegumikg.net>
メールアドレス fukagawamegumi@yahoo.co.jp

ありがとう

園長 白井 真樹

本年も親子バス遠足、ありがとうございました。私も、およそ10年ぶりにカムイの杜を訪れました。以前、めぐみ幼稚園に勤めていた頃にも、2年に一度訪れていた場所ですので、とても懐かしく感じました。また、私の息子がまだ小さかった頃、それこそ、めぐみ幼稚園の園児だった頃に、私の両親が息子をカムイの杜に連れて行ってくれたことも思い出しました。その息子も、いまでは二人の男の子の父親となりました。ということは、私も二人の孫のおじいちゃんになったわけです。一方、私の父は数年前に病に倒れ、天に召されました。こうして振り返ってみると、ずいぶん長い年月が流れたはずなのに、なんだかあっという間だったようにも思います。

さて、親子遠足では、子どもたちが本当に楽しそうに遊んでいました。その姿は、私の息子も含め、かつてそこで遊んでいた子どもたちと少しも変わりません。子どもは、みんなと一緒に思い切り楽しんで遊ぶ中でこそ、豊かに育っていくのだなあと、改めて思いました。子どもたちが、これからもたくさん遊び、たくさん笑いながら成長してくれることを願っています。

10月、私たちの園では「感謝会」を迎えます。先日、教職員で「感謝会で、私たちは何に感謝するのだろう」と改めて話し合いました。そこで確かめ合ったのは、三つの「感謝」です。子どもたちの成長への感謝。秋の豊かな実り、収穫への感謝。そして、私たちの周りで働き、暮らしを支えてくださっている人々への感謝です。感謝会の日だけではなく、この一か月を通して、子どもたちと一緒に、いろいろな「ありがとう」を見つけていきたいと思います。「ありがとう」と言えることがたくさんある。それは、とても幸せなことなのかもしれません。そして、子どもたち一人ひとりの心にも、豊かな実りが与えられますように。神さま、ありがとう！

+++++

10月の聖書のみことば ローマの信徒への手紙12章15節

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」

チャプレン（牧師）西川 真人

子どもたちの毎日は、喜びと悲しみの繰り返しです。昨日までできなかったことができるようになって、嬉しそうに「見て、見て！」と声を上げることもあれば、お友だちとのけんかや、思いどおりにならないことがあって、涙を流すこともあります。

そんなとき、子どもたちが求めているのは、必ずしも立派なアドバイスや、問題を解決してくれる言葉ではないのかもしれませんが。「できたね！」「嬉しいね！」と一緒に喜んでくれる人、「悲しかったね」「悔しかったね」と、その気持ちを受け止めてくれる人がいること。それだけで、子どもたちの心は安心し、また一步を踏み出す力が生まれてくるのでしょうか。

聖書には、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」という言葉があります。これは、相手の気持ちに寄り添い、その人の喜びや悲しみを自分のことのように大切にすることを教えています。

大人は、ともすると、子どもが泣いていると「泣かないの」「大丈夫だから」と励ましたくなります。もちろん、それも愛情から出る言葉です。しかし、ときには、無理に泣きやませようとせず、ただそばにいて、一緒に悲しんであげることも大切なのではないのでしょうか。

イエス様も、人々の喜びを共に喜び、悲しむ人のそばで涙を流された方でした。神様は、私たちが嬉しいときも、悲しいときも、その気持ちを受け止め、共にいてくださるのです。

幼稚園も、子どもたちが互いの喜びを喜び、悲しみに寄り添う心を育んでいく場所でありたいと願っています。

誰かが嬉しいときには「よかったね」と声をかけ、悲しいときには「どうしたの」とそばに寄り添う。そんな小さな思いやりの積み重ねが、子どもたちの心を豊かに育て、温かな世界をつくっていくのだと思います。

